

国際トゥースフレンドリー協会総会報告

日本トゥースフレンドリー協会会長 山田 正

1. 国際トゥースフレンドリー協会総会に先立ち、
前日（平成 27 年 2 月 19 日（木） 14:00 - ）に国際トゥースフレンドリー協会の
事務所にて各国トゥースフレンドリー協会よりの活動報告と計画が報告された。

The Swiss Toothfriendly Association (Claudia Uebelmann)
The Turkish Toothfriendly Association (Dr. Seyhan Gücüm) 電話参加
The Japanese Toothfriendly Association (Prof. Tadashi Yamada)
The Korean Toothfriendly Association (Dr. Seung-Chul Shin)

国際トゥースフレンドリー協会職員

Dr. Albert Bär
Laia Grao
Kati Weiss

前日は、イスタンブールの大雪で、航空機が飛ばず、トルコの代表が参加できず、電話参加という形になり、韓国代表の一人も、参加できなかった。

- ❖ 最初に、韓国の申代表より報告があり、現在、韓国ではキシリトールブームが下火となってきたこと、さらに、

- ・キシリトールの効果を強調してきたフィンランドのメッキネン教授がキシリトールの効果はソルビトールの効果とほとんど同じで、エリスリトールの方がさらによいのではないかというような発言があり、情勢の変化が大きいと報告された。
- ・さらに、韓国パナソニックがこの分野に進出してきたとのことであった。

韓国の報告の議論の中で、最近、トゥースフレンドリー協会の活動として、「歯に信頼マーク」の認知度を高めるためもあり、間食品以外にも、歯ブラシや歯磨剤に「歯に信頼マーク」を付けているが、「歯に信頼マーク」を与えるための基準をどうするかということが話題となった。

- ・歯磨剤であると、フッ素の含有量とか研磨剤が入っているかどうかなどの問題がある。
- ・「歯に信頼マーク」付きの歯ブラシが他の歯ブラシと比べどのようによいかというはっきりした基準がない。

当面、各国の協会や、歯科医師会などの認定などで、決めているが、国際的に基準を決める必要が議論されたが、結論には至らなかった。

- ❖ トルコからの報告は電話を通じて行われた。ここでは、かなり活発なトゥースフレンドリー活動が行われているようである。

- ・まず、2014年には協会の小冊子をつくり、配付することができたが、この費用は会社から広告代でカバーできたとのことである。
 - ・いくらかの費用を払い、10時間の受講コースを受けると「トゥースフレンドリー歯科医」を標榜できるようになるとのことであった。
 - ・ただ、この国では、食品会社とのコンタクトは少ないとのことであった。
- ❖ スイスでは、4百万の冊子がつくられ、広く配布されたとのことである。スイスでは、すでに学校教育の中にトゥースフレンドリー教育が取り入れられているが、さらに幼稚園での教育に計画されているとのことである。また、会員には、メンバーであることを示すロゴの使用が許されるとのことであった。
- ❖ 最後に、山田より日本協会からの報告を行った。
- ・各種事業報告と共に、主として日本での食品表示システムの改定について話した。そのなかでも、口腔保健用機能性食品研究会を通して、トクホの「体調調節機能を有する成分（関与成分）を含み」を「疾患予防機能あるいは体調調節機能を有する成分を含み」と変更すること。ならびに、齲蝕など歯科疾患の特殊性から、今後、このような委員会には、必ず、歯科研究者あるいは関係者を委員に入れることを提案したが、その申し入れの結果は現在のところ不明であることを報告した（その後の情報では、この申し入れは、現在のところ全く無視されている）。
 - ・これに対し、事務局長のベール博士から、食品に「予防」という概念は、世界のどこでも許可されていないので、無理ではないかとの発言があった。
 - ・また、仙台の震災からの復興が進み、東北大学でトゥースフレンドリー協会のテストセンターの再開に向けての動きが始まったことを報告した。

2. 翌日、下記のように総会が行われた。

第26回 General Assembly and 11th Board Meeting of Toothfriendly International
 平成27年2月20日(金) 09:30 -
 Bulldungszentrum 21 2nd floor, Basel, Switzerland

参加者は、下記の通りである。

The Swiss Toothfriendly Association (Claudia Uebelmann)
 The German Toothfriendly Association (Prof. Stefan Zimmer)
 The Turkish Toothfriendly Association (Dr. Seyhan Gücüm)
 The Japanese Toothfriendly Association (Prof. Tadashi Yamada)
 The Korean Toothfriendly Association (Dr. Seung-Chul Shin)
 Roquette Frères (Mrs. Marie-Hélène Saniez)
 Beneo (Claudia Meissner)

国際トゥースフレンドリー協会理事

Prof. Stefan Zimmer
 Dr. Seyhan Gücüm
 Dr. Peter Wiehl

国際トゥースフレンドリー協会職員

Dr. Albert Bär
 Laia Grao
 Kati Weiss

❖ ベール事務局長の司会で、定員等の確認後、開会した。

- ① まず、国際トゥースフrendリー協会の **Laia Grao** が協会の **Strategy** について提示し、協会の質は保たれていることを報告した。また、**Kager** から **Erythritol** の製造が始まったことも報告された。さらに、今までは、小児を主な対象としてきたが、高齢者に対するアプローチも行うことについて、山田より、唾液の分泌が少なくなっている高齢者が多く、歯垢 pH を低下させない飴などの必要性が高いことを提示した。
- ② 次いで、2014年の活動報告がなされ、スイス協会から寄贈されたお金を、ルーマニアの歯の健康（齲蝕予防）発展などに使われることになっていたが、ルーマニアでは、何もなされなかった。そのため、ブカレストに飛んで、資金の回収に勤めたとの報告が会った。また、メキシコでの活動を考え、コンタクトを探っているとのことであった。
- ③ 現在、**Zurich** のテストセンターでの検査は、協会を通して行っているとのことであった。
- ④ 2015年の活動計画については、それぞれの国の **Natinal Associations** を助けていきたいとのことで、サウジアラビアにトゥースフrendリー製品があり、齲蝕が多く、健康への関心が高いので、協会の活動をしていきたいとのことであった。
- ⑤ ルーマニアへの計画を続けるか、中止するかとの議論があり、採決の結果、続行することに決まった。
- ⑥ タイのテストセンターでは、電極に使う **Plague** ができていないため、難航しているとのことであった。
- ⑦ また、中国のテストセンターの現状について報告があり、テスト料金について、チューリッヒと同じ値段を要求しており、問題があるとのことであった。
- ⑧ **Riocola** がマーク付き商品から撤退したので、2015年の収入減となる。そのため、FDIへの参加などを取りやめ、費用の節約に努めるとのことであった。

以上で2015年2月20日に行われた会議は閉会した。